

バイオマス利活用施設の概要

作成日：2007年11月22日

作成者：(株)循環社会研究所

	<p>【施設名称】 えこ3センター</p> <p>【事業主体】 紫波町</p> <p>【所在地】 岩手県紫波郡紫波町</p> <p>【運転開始年】 平成17年</p>
原材料および 利用量	<p>ペレット燃料用チップ 155 m<sup>3</sup></p> <p>ペレット原料用オガ粉 567 m<sup>3</sup></p> <p>ペレット原料用粉碎バーク 2 m<sup>3</sup> (18年4月～19年3月)</p>
生産物(種類)	ペレット
利用方法	ボイラー、ストーブの燃料
導入目的・経緯	<p>紫波町では、平成13年に「環境・循環基本計画」が策定されるとともに「循環型まちづくり、条例」が制定され、100年先を見据えた自然環境や生活環境の保全と創造による循環型社会の構築を目指し、様々な取組を実施していた。また、最近の厳しい林業を取り巻く情勢により林業施策が困難となっていることによる、山林の放置が顕著化していた。このことから、同町面積の58%を占め、林産物の生産や国土保全、環境保全等の多面的機能を発揮し、美しい農村環境を作り上げている森林の保全と、山を育て林業の再生を目指して、木質ペレットを製造する設備を、同町のバイオマス拠点施設となっている「えこ3センター」内に設置した。「えこ3センター」では、木質ペレットの製造施設のほか、家畜排せつ物・食品残さを処理したい肥を生産するたい肥化施設、間伐材・木屑を処理し炭灰(土壌改良材)を生産する炭化施設などのバイオマス施設も併設されている。</p>
設備仕様	<p>【ペレット製造施設】原料乾燥設備1式、ペレット成型設備1式</p> <p>【高品質堆肥製造施設】原材料受入ホッパー、前処理施設、発酵槽、ロータリー攪拌設備</p> <p>【間伐材等炭化施設】プラント1式、炭化炉、木酢液回収装置</p> <p>施設のシステムフロー(画像)</p> <p>（画像提供：NPO法人紫波みらい研究所）</p>

稼働状況	<p>バイオマス発生源</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林組合 (製材工場) 燃料用チップ</li> <li>森林組合 (製材工場) 原料用オガ粉・粉砕パーク</li> <li>町内製材工場 (5か所) 原料用オガ粉</li> </ul> <p>搬入 回収 回収</p> <p>ペレット製造施設 (えこ3センター)</p> <p>直接販売 NPO 法人紫波みらい研究所</p> <p>小学校・保育園・駅待合室 暖房用ボイラー及びストーブに使用 家庭暖房用ストーブに使用</p> <p>(18年4月～19年3月)</p> <p>ペレット燃料用チップ 155 m<sup>3</sup>  ペレット原料用オガ粉 567 m<sup>3</sup>  ペレット原料用粉砕パーク 2 m<sup>3</sup></p> <p>・燃料用チップは、森林組合の製材工場が搬入  ・原料用オガ粉、粉砕パークは、えこ3センターが車両で回収</p> <p>木質ペレット 処理能力 100kg/時以上  実処理量 100kg/時</p> <p>販売価格(19年4月)  ・1kg 40円  販売数量(18年4月～19年3月)  ・直接販売 97 t</p>
経済性関連データ	施設整備費用 30,870 千円
導入効果	<p>紫波町は「紫波の今の環境を保全し、創造し、100年後の子供たちによりよい姿で引き継いで、いく」ことを宣言した「新世紀未来宣言」を発表し、環境と資源循環への取組を積極的に進めており、木質バイオマスの利活用によって町民の循環型まちづくりやバイオマスへの理解が向上することが期待されている。</p> <p>木質ペレットの利用により、二酸化炭素の排出が抑制されるとともに、未利用森林資源の循環活用、町産木材の積極的活用により、木材産業の活性化や森林が持つ公益的機能の保全が期待されている。</p>
運営上の課題	現在の原料は、製材工場からのおが粉が主体となっているが、間伐材等の未利用森林資源を積極的に活用していく仕組みを整備していくことが必要となっている。
備考・参考資料	「新たなバイオマス・ニッポン総合戦略にむけて～東北地域におけるバイオマスの取組～」(平成18年10月), 東北農政局発行 を元に情報追加(平成19年11月)